

花川病院 桐腰祐子(看護師/2階回復期リハ病棟/看護主任)

功 績 桐腰は、2021年第29回日本慢性期医療学会で認知症患者への取り組みを発表しました。その発表から当院における認知症ケアの取り組みを、日本慢性期医療協会誌から投稿依頼がありました。桐腰が中心になり、投稿文をまとめ、2022年4月号に掲載され、花川病院の認知症ケアについて全国へアピールすることができた功績。

推 薦 者 丹羽すみ子(職種 看護部長)

推 薦 理 由 桐腰は2階回復期リハ病棟の看護主任です。スタッフのみならず、患者さん、ご家族の信頼も厚く、特に、認知症患者のケアは適切なアドバイスをしながら取り組んでいます。今回の事例も昼夜逆転、周辺症状が強く、改善せず、リハビリテーションも実施できず困難な患者さんでしたが、睡眠日誌を取り入れ介入、改善することができました。今回の雑誌投稿文作成時に、クラスター発生と重なりましたが、桐腰が中心となり、まとめ、投稿することができました。

桐腰主任を、花川病院の認知症ケアを全国にアピールすることができた貢献で理事長賞に推薦いたします。

内 容

認知症高齢者の入院が多く、認知症患者さんが穏やかに入院生活を継続することが大きな課題である。特に、入院がきっかけに認知症が進み、昼夜逆転、周辺症状を呈する患者さんに対して、医師による薬物治療とともに、看護ケアも重要である。

今回、入院時から帰宅願望、昼夜逆転、夜間せん妄があり、向精神薬投与で十分な効果が得られなかったため、日光浴、仮眠、軽運動を取り入れた日課表、睡眠日誌を活用し、意図的に介入することに取り組みました。日光浴、運動はセラピストが協力し、睡眠日誌で睡眠覚醒リズムを確認しながら医師は薬剤調整と、まさにチームアプローチでした。

この事例は「睡眠日誌を活用した認知症高齢者の睡眠覚醒リズムの改善のこころみ」としてまとめ、日本慢性期医療学会で発表した。

この発表がきっかけで日本慢性期医療協会誌の「認知症の医療とケア」へ投稿依頼があった。

桐腰は2階回復期リハ病棟の看護主任で、この事例と当院の身体抑制をしないケアをアピールした投稿文を作成しようとした矢先に、当該病棟でクラスターが発生した。

そのため投稿文の役割を分担をして、桐腰が中心となりまとめあげた。

2022年4月号に掲載され、当院における認知症ケアの取り組みを全国へアピールすることができた。